

古文「めり・らし・なり」推定の助動詞 識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosennsei.com) 無断転載禁止

はじめに

「めり」「らし」「なり」は、どれも「～らしい・～ようだ」と訳せる推定の助動詞ですが、「何を根拠に推定しているか」で使い分けます。さらに「なり」は**断定**の「なり」と紛らわしく、**接続**で見分けます。

傍線部を次の**4タイプ (ア～エ)** に分類しましょう。

記号	語・意味	根拠・目印	接続
ア	めり (視覚推定・婉曲)	目で見て「～ように見える」	終止形 (う変型は連体形)
イ	なり (聴覚推定・伝聞)	音・声・人づて「～と聞こえる／～だそう だ」	終止形 (う変型は連体形)
ウ	らし (根拠ある推定)	確かな根拠「～らしい」(和歌に多い)	終止形 (う変型は連体形)
エ	なり (断定)	「～だ・～である」と言い切る	体言・連体形に接続

鉄則 - めり → 目で見た推定 (ア)。 らし → 根拠ある推定 (ウ)。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」は接続を必ず確認。終止形に付けば推定・伝聞 (イ) / 体言・連体形に付けば断定 (エ)。 - 例：「鐘の音聞こゆなり (下二段の終止形＋なり＝聞こえるようだ→イ)」⇔「鐘の音の聞こゆるなり (連体形＋なり＝聞こえるのである→エ)」。土佐日記の冒頭「男も**すなる**日記といふものを、女もしてみむとて**するなり**」も、サ変の終止形「す」＋なり (伝聞→イ) と、連体形「する」＋なり (断定→エ)。 - **四段とう変型は、接続だけでは決まらない**。四段は終止形と連体形が同じ形 (鳴く・言ふ など)。う変型 (あり・形容動詞 など) には、推定・伝聞の「なり」も連体形に付く。**音・声・うわさを受けていれば推定・伝聞 (イ)、「～である・～のだ」と説明していれば断定 (エ)** と、文脈で決める。撥音便の「あんなり」「なんなり」(「ん」を書かない「あんり」「なんり」も) なら推定・伝聞 (イ)。

🎯 解き方のコツ

- まず語を見る。「めり」ならア、「らし」ならウで確定 (断定と混じらない)。
- 「なり」が出たら**接続をチェック**。直前が**体言**か**連体形**なら断定 (エ)。直前が**終止形**なら推定・伝聞 (イ)。四段・う変型で形が決まらないときは、**音・声・うわさの文脈**なら推定・伝聞

(イ)、説明・言い切りなら断定 (エ)。

3. サ変「す」なら、終止「す」＋なり＝推定 (イ)／連体「する」＋なり＝断定 (エ)。下二段なら終止「聞こゆ」／連体「聞こゆる」で見分ける。

4. めり＝目／なり＝耳・人づて／らし＝根拠、と根拠で覚える。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

見れば、人々はや帰るめり。 答え：ア 解説：「帰る（終止）＋めり」。目で見て「帰るように見える」視覚推定。

Q2. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

隣の家に、笛の音すなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。音を聞いての聴覚推定「笛の音がするようだ」。

Q3. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）夕されば衣手寒しみ吉野の吉野の山にみ雪降るらし（古今集） 答え：ウ 解説：「降る（四段・終止）＋らし」。夕方になって袖が寒いことを根拠に「吉野の山に雪が降っているらしい」と推しはかる。和歌に多い。

Q4. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

これは、都の人の家なり。 答え：エ 解説：体言「家」＋なり。「～である」と言い切る断定。

Q5. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

風吹きて、花散るめり。 答え：ア 解説：「散る（終止）＋めり」。目で見てもの視覚推定「散るように見える」。

Q6. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

山のあなたに、鹿の鳴くなり。 答え：イ 解説：声を聞いての聴覚推定「鹿が鳴いているようだ」。

Q7. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

かの人、やむごとなき大臣なり。 答え：エ 解説：体言「大臣」＋なり。断定「～である」。

Q8. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）秋の野に、萩咲きぬらし。 答え：ウ 解説：「咲きぬ（終止）＋らし」。根拠ある推定「咲いたらしい」。

Q9. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

子ども、皆寝ぬめり。 答え：ア 解説：「寝ぬ（終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定「寝てしまったようだ」。

Q10. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

夜更けて、遠く鐘の聞こゆなり。 答え：イ 解説：「聞こゆ（下二・終止）＋なり」。音を聞いての聴覚推定。

Q11. 次の傍線部「なれ」は、ア～エのどれか。

我こそは、この国の主なれ。 答え：エ 解説：体言「主」＋なり（已然形「なれ」、係助詞「こそ」の結び）。断定。

Q12. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

月、山の端に出づめり。 答え：ア 解説：「出づ（下二・終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q13. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山（万葉集・持統天皇） 答え：ウ 解説：「来たる（四段・終止）＋らし」。香具山に白い衣が干してあるのを根拠にした推定「夏が来たらしい」。百人一首では「春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山」の形で知られる。

Q14. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒のあたりに、水の流るなり。 答え：イ 解説：「流る（下二・終止）＋なり」。音を聞いている聴覚推定。

Q15. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

ここは、昔の宮の跡なり。 答え：エ 解説：体言「跡」＋なり。断定「～である」。

Q16. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

道のほとりに、人多く集ふめり。 答え：ア 解説：「集ふ（終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q17. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

戸の外に、人の来（く）なり。 答え：イ 解説：「来（カ変・終止「く」）＋なり」。物音を聞いている聴覚推定「人が来るようだ」。

Q18. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) 龍田川もみぢ葉流る神なびのみむろの山に時雨**降るらし** (古今集) **答え：ウ** **解説：**「降る (四段・終止) + らし」。龍田川を紅葉が流れてくるのを根拠に、三室の山に時雨が降って紅葉を散らしているらしいと推しはかる。和歌に多い。なお、同じ古今集の「龍田川もみぢ乱れて流るめり」は、目で見たとすの「めり」(ア)。

Q19. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この笛、世に名高き宝**なり**。 **答え：エ** **解説：**体言「宝」+なり。断定。

Q20. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

遠き山の方を見やれば、雨**降るめり**。 **答え：ア** **解説：**「降る (終止) + めり」。遠くの山を見ての視覚推定「(あのあたりは) 雨が降っているようだ」。

【第2部】標準 (Q21～Q50)

Q21. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

草むらに、虫の鳴く**なり**。 **答え：イ** **解説：**声を聞いての聴覚推定「虫が鳴いているようだ」。

Q22. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

答へていはく、「我はこの浦の海人 (あま) **なり**」と。 **答え：エ** **解説：**体言「海人 (あま)」+なり。断定「～である」。

Q23. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

庭の桜、はや咲き**初むめり**。 **答え：ア** **解説：**「初む (下二・終止) + めり」。目で見るとの視覚推定。

Q24. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) ひさかたの天の香具山この夕(ゆふへ)霞たなびく春**立つらし**も(万葉集) **答え：ウ**
解説：「立つ(四段・終止)＋らし」＋詠嘆の終助詞「も」。この夕べ、香具山に霞がたなびいているのを根拠にした推定「春になったらしい」(「春立つ」＝春になる)。

Q25. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

壁を隔てて、人の物言ふ声**すなり**。 **答え：イ** **解説：**「す(サ変・終止)＋なり」。声を聞いての聴覚推定。

Q26. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

持ちたるは、めづらかなる唐の鏡**なり**。 **答え：エ** **解説：**体言「鏡」＋なり。断定。

Q27. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

舟、はや岸を**離るめり**。 **答え：ア** **解説：**「離る(下二・終止)＋めり」。目で見えての視覚推定。

Q28. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒の松に、風の**渡るなり**。 **答え：イ** **解説：**松を渡る風の音を聞いての聴覚推定。

Q29. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この童は、商人(あきびと)の子**なり**。 **答え：エ** **解説：**体言「子」＋なり。断定。

Q30. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) うちなびく春立ち**ぬらし**我が門の柳の末(うれ)に鶯鳴きつ(万葉集) **答え：ウ**
解説：「立ち」(四段「立つ」の連用形)＋完了「ぬ」の終止形＋らし。我が家の門の柳の枝先で鶯が鳴いたのを根拠にした推定「春になったらしい」(「うちなびく」は「春」にかかる枕詞)。

Q31. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

火、いよいよ燃え**広がるめり**。 答え：ア 解説：「広がる（終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q32. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

谷の方より、水の**落つなり**。 答え：イ 解説：「落つ（上二・終止）＋なり」。水音を聞いている聴覚推定。

Q33. 次の傍線部「なる」は、ア～エのどれか。

答へけるは、「これなむ、求めし玉**なる**」。 答え：エ 解説：体言「玉」＋なり（連体形「なる」、係助詞「なむ」の結び）。断定。

Q34. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

人々の気色、いと心苦しげ**なめり**。 答え：ア 解説：「なる（形容動詞・連体）＋めり」が「なめり」。様子を見ての視覚推定。

Q35. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

御簾の外に人々の声して、「上達部、皆参り給ふ」と**言ふなり**。 答え：イ 解説：「言ふ」は四段で、終止形と連体形が同じ形なので、接続だけでは決まらない。御簾の外の人々の話し声を聞いている聴覚推定「～と言っているようだ（言っているのが聞こえる）」。

Q36. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

かの聖の住む所は、深き山の奥**なり**。 答え：エ 解説：体言「奥」＋なり。断定。

Q37. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）さ夜中と夜は更け**ぬらし**雁がねの聞こゆる空に月渡る見ゆ（古今集） 答え：ウ 解説：「更け」（下二段「更く」の連用形）＋完了「ぬ」の終止形＋らし。雁の音が聞こえる空を月が渡っていくのを根拠にした推定「夜はもう真夜中になっただろう」。

Q38. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒近く、鳥の羽うつ音すなり。 答え：イ 解説：「す（サ変・終止）＋なり」。羽音を聞いているの聴覚推定。

Q39. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

日暮れて、人かげまれなるめり。 答え：ア 解説：「まれなる（形容動詞・連体）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q40. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この所、もとは海なりき。 答え：エ 解説：体言「海」＋なり（連用形「なり」＋過去「き」）。断定。

Q41. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

聞けば、都には疫病（えやみ）いみじくおこるなり。 答え：イ 解説：「おこる」は四段で、終止形と連体形が同じ形なので、接続だけでは決まらない。「聞けば」とあり、人から聞いた話を伝えているので伝聞「（都では）疫病がひどくはやっているようだ」。

Q42. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

簾（すだれ）のうちに、人あまたゐるめり。 答え：ア 解説：「ゐる（上一段・終止）＋めり」。簾越しに見ての視覚推定「人が大勢いる（座っている）ようだ」。

Q43. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）富士の嶺に、雪はなほ降るらし。 答え：ウ 解説：「降る（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q44. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

持て来たるは、よく切る刀なり。 答え：エ 解説：体言「刀」＋なり。断定。

Q45. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒の雫、いまだ落つなり。 答え：イ 解説：「落つ（上二・終止）＋なり」。雫の音を聞いての聴覚推定。

Q46. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

病、日にそへて重るめり。 答え：ア 解説：「重る（終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定。

Q47. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

われは、その家に仕ふる女房なり。 答え：エ 解説：体言「女房」＋なり。断定。

Q48. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

人づてに聞けば、かの君は、はや都へ帰り給ひぬなり。 答え：イ 解説：完了「ぬ」の終止形＋なり（連体形なら「ぬる」）。終止形に付いているので推定・伝聞。「人づてに聞けば」とあるので伝聞「あの方はもう都へお帰りになってしまったそうだ」。Q51の「来（き）ぬるなり」（連体形＋なり＝断定）と比べよう。

Q49. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）春日野の若菜摘みつつ、君を待つらし。 答え：ウ 解説：「待つ（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q50. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

池の蓮、おほかた散り果てぬめり。 答え：ア 解説：「果てぬ（終止）＋めり」。目で見えての視覚推定。

【第3部】応用（Q51～Q80）

Q51. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

朝夕の風の涼しきは、秋の来（き）ぬるなり。 答え：エ 解説：「来ぬる（完了「ぬ」連体）＋なり」。連体形接続なので断定「秋が来たのだ」。

Q52. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

ものの音、絶え絶えに聞こゆなり。 答え：イ 解説：「聞こゆ（下二・終止）＋なり」。終止形接続で聴覚推定「聞こえるようだ」。

Q53. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

あれは、寺の僧どもの念誦（ねんず）するなり。 答え：エ 解説：「念誦する」（サ変「念誦す」の連体形）＋なり。連体形接続なので断定「（あの声は）寺の僧たちが念誦しているのである」。声を聞く場面でも、上が連体形「する」なので断定になる。

Q54. 次の傍線部「なる」は、ア～エのどれか。

山深く分け入れば、いつこにか、犬の吠ゆなる。 答え：イ 解説：「吠ゆ（下二段・終止）＋なり」。係助詞「か」の結びで「なり」は連体形「なる」になっているが、上が終止形「吠ゆ」（連体形なら「吠ゆる」）なので推定（イ）。犬の声を聞いての聴覚推定「どこで犬が吠えているのだろうか（声が聞こえる）」。

Q55. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

灯（ともしび）の影、かすかにゆらぐめり。 答え：ア 解説：「ゆらぐ（終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q56. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

よく見れば、これは作りたる花なり。 答え：エ 解説：体言「花」＋なり。断定「造花である」。

Q57. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）我が宿の梅、今を盛りと咲くらし。 **答え：ウ** **解説：**「咲く（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q58. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

暁、鶏（とり）の鳴くなり、いざ立たむ。 **答え：イ** **解説：**鶏の声を聞いての聴覚推定「鳴いているようだ」。

Q59. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

このわたりに、いやしからぬ人のおはすなり。夜ごとに、をかしき琴の音聞こゆ。 **答え：イ** **解説：**「おはす（サ変・終止）＋なり」（連体形なら「おはする」）。終止形に付いているので推定。毎夜聞こえる琴の音を根拠に「身分の低くない方がいらっしゃるようだ」と推しはかる聴覚推定。

Q60. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

雪うち積もりて、道も埋もれぬめり。 **答え：ア** **解説：**「埋もれぬ」（下二段「埋もる」の連用形＋完了「ぬ」の終止形）＋めり。目で見ての視覚推定「道も（雪に）埋もれてしまったようだ」。

Q61. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

その帝は、世を治むること九年なりき。 **答え：エ** **解説：**体言「九年」＋なり（連用形＋き）。断定。

Q62. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

山風のたよりに、遠く人の笛吹くなり。 **答え：イ** **解説：**「吹く」は四段で、終止形と連体形が同じ形。山風に運ばれてくる笛の音を聞いての聴覚推定「遠くで人が笛を吹いているようだ」。

Q63. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

(歌) この川にもみぢ葉流る奥山の雪げの水ぞ今**まさるらし** (古今集) **答え：ウ** **解説：**「まさる (四段・終止) + らし」。係助詞「ぞ」の結びで、この「らし」は連体形 (「らし」は終止形も連体形も同じ形)。川を紅葉が流れてくるのを根拠に「奥山の雪どけの水が今増しているらしい」と推しはかる。

Q64. 次の傍線部「なれ」は、ア～エのどれか。

これこそ、年ごろ尋ねし父の形見**なれ**。 **答え：エ** **解説：**体言「形見」 + なり (已然形「なれ」、「こそ」の結び)。断定。

Q65. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

客、酔ひて、いたく**乱るめり**。 **答え：ア** **解説：**「乱る (下二・終止) + めり」。様子を見ての視覚推定。

Q66. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

帳のうちに、人のうち嘆くけはひ**すなり**。 **答え：イ** **解説：**「す (サ変・終止) + なり」。気配・音を聞いての聴覚推定。

Q67. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

文を開きて見れば、別れを告ぐる言葉**なり**。 **答え：エ** **解説：**体言「言葉」 + なり。断定。

Q68. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

人の言ふを聞けば、この寺の観音、いと験 (しるし) **あなり**。 **答え：イ** **解説：**「あなり」は、ラ変「あり」の連体形「ある」 + なりが撥音便で「あんなり」となり、「ん」を書かない形。ラ変型には推定・伝聞の「なり」も連体形に付き、撥音便の形は推定・伝聞のしるし。「人の言ふを聞けば」とあるので伝聞「この寺の観音は、たいそう霊験があるそうだ」。

Q69. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）水鳥の立ちし騒ぎに、敵（あた）の寄せ来（く）らし。 答え：ウ 解説：「来（カ変・終止「く」）＋らし」。水鳥の騒ぎを根拠にした推定。

Q70. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

馬、草に飽きて、いま臥（ふ）すめり。 答え：ア 解説：「臥す（終止）＋めり」。目で見ての視覚推定。

Q71. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

門をたたく音す。これは、殿よりの御使ひの来（く）るなり。 答え：エ 解説：「来る」（カ変「来（く）」の連体形）＋なり。連体形接続なので断定「（この音は）お屋敷からのお使いが来たのである」。Q17の「来（く）なり」（終止形＋なり＝推定）と比べよう。

Q72. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

軒端を、しきりに雨のうつなり。 答え：イ 解説：「うつ（四段・終止）＋なり」。雨音を聞いての聴覚推定。

Q73. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

かの女、このごろ心地わづらふめり。 答え：ア 解説：「わづらふ（終止）＋めり」。様子を見ての視覚推定。

Q74. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

御簾のうちに、琴をかき鳴らすなり。 答え：イ 解説：「鳴らす（四段・終止）＋なり」。琴の音を聞いての聴覚推定。

Q75. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

帝のおはします所は、内裏といふ所なり。 答え：エ 解説：体言「所」＋なり。断定。

Q76. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（作例の歌）秋萩の散りゆく見れば、鹿鳴きぬらし。 答え：ウ 解説：「鳴きぬ（終止）＋らし」。根拠ある推定。

Q77. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

戸を叩きて、何やらん告ぐるなり。 答え：エ 解説：「告ぐる（下二・連体）＋なり」。連体形接続なので断定「告げるのだ」。

Q78. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

月の明かき庭に人もなく、ただ静かなめり。 答え：ア 解説：「静かなる（形容動詞・連体）＋めり」が「静かなめり」。人のいない月夜の庭を見ての視覚推定「ひっそりとしているように見える」。

Q79. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

隣にて、人の声高に物言ふなり。 答え：イ 解説：「言ふ（四段・終止）＋なり」。声を聞いての聴覚推定。

Q80. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この皮衣（かはごろも）は、まことの火鼠（ひねずみ）の皮なり。 答え：エ 解説：体言「皮」＋なり。断定。

【第4部】入試（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「なる」は、ア～エのどれか。

夜もすがら、軒の雨のそそくなるを聞きて、明かしつ。 答え：イ 解説：「そそく（四段）＋なり」の連体形「なる」（下の「を」に続く）。四段は終止形と連体形が同じ形なので、接続だけでは決まらない。雨音を聞いている場面なので、聴覚推定と判断する。「一晩中、軒に雨が降りそそいでいるらしい音を聞いて、夜を明かした」。

Q82. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

よく見れば、人と見えしは枯れたる木**なり**けり。 **答え：エ** **解説：**体言「木」＋なり（＋けり）。断定「枯れ木であったのだ」。

Q83. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

門のうちをのぞけば、車あまた**あめり**。 **答え：ア** **解説：**「あめり」は、ラ変「あり」の連体形「ある」＋めりが撥音便で「あんめり」となり、「ん」を書かない形。ラ変型には「めり」も連体形に付く。門の中をのぞいて見ての視覚推定「牛車がたくさんあるようだ」。

Q84. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）ぬき乱る人こそ**あるらし**白玉のまなくも散るか袖のせばきに（古今集・在原業平） **答え：ウ** **解説：**「ある（ラ変「あり」の連体形）＋らし」。「らし」はラ変型には連体形に付く。係助詞「こそ」の結びで已然形（「らし」は形が変わらない）。布引の滝のしぶき（白玉）が絶え間なく散るのを根拠に「（玉を通したひもを）抜いて玉を散らしている人がいるらしい」と推しはかる。

Q85. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

几帳のかげに、衣のふれ合ふ音**すなり**。 **答え：イ** **解説：**「す（サ変・終止）＋なり」。衣ずれの音を聞いているの聴覚推定。

Q86. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

答へていはく、「この道を行けば、京にいたる**なり**」と。 **答え：エ** **解説：**「いたる（四段・連体）＋なり」。四段「いたる」は終止形・連体形が同形なので、接続だけでは決まらず、ここは「～のだ」と説明する文意から連体形＋なりの断定と判断する。

Q87. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

主（あるじ）の心ばへ、いとあはれに、人を**いたはるめり**。 **答え：ア** **解説：**「いたはる（終止）＋めり」。様子から判断する視覚推定（婉曲）。

Q88. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

をちかたに、舟こぐ音のかすかに**すなり**。 **答え：イ 解説：**「す（サ変・終止）＋なり」。遠くの櫓の音を聞いての聴覚推定。（※「する」ではなく終止「す」＋なり。連体形「する」と取り違えないこと（サ変の已然形は「すれ」）。）

Q89. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）難波潟潮満ち**来（く）らし**雨衣田蓑（たみの）の島に鶴（たづ）鳴き渡る（古今集） **答え：ウ 解説：**「満ち来（く）」（カ変「来」の終止形「く」）＋らし。田蓑の島をさして鶴が鳴きながら飛んでいくのを根拠に「潮が満ちてくるらしい」と推しはかる。

Q90. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この人は、もとは藤原のなにがしと聞こえし**人なり**。 **答え：エ 解説：**体言「人」＋なり。断定。

Q91. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

花は盛り過ぎて、葉がちになり**ゆくめり**。 **答え：ア 解説：**「なりゆく（終止）＋めり」。木の様子を見ての視覚推定。

Q92. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

奥に物言ふ声を聞けば、この家のあるじ**ななり**。 **答え：イ 解説：**「な」は断定「なり」の連体形「なる」で、「なるなり」が撥音便で「なんなり」となり、「ん」を書かない形が「ななり」。ウ変型の連体形に付く「なり」で、撥音便の形なので推定・伝聞。声を聞いての聴覚推定「（話しているのは）この家の主人であるようだ」。

Q93. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

この瓜は、いとよく熟（う）れたる**なり**。一つ召せ。 **答え：エ 解説：**「熟れたる」は完了（存続）「たり」の連体形。「たり」はウ変型なので形だけでは決まらないが、撥音便の「たんなり・たなり」ではなく、音・声・うわさも受けていない。瓜のようすを「よく熟しているのだ」と言い切って勧めているので断定。

Q94. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）秋の夜は露こそことに**寒からし**草むらごとに虫のわぶれば（古今集） **答え：ウ 解説：**「寒からし」は、形容詞「寒し」の連体形「寒かる」に「らし」が付いた「寒かるらし」がつまった形。「らし」はウ変型（形容詞のかり活用など）には連体形に付く。係助詞「こそ」の結びで已然形（「らし」は形が変わらない）。草むらごとに虫がわびしげに鳴くのを根拠にした推定「秋の夜は露がとりわけ寒いらしい」。

Q95. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

夜深く、時を告ぐる鼓（つづみ）の**鳴るなり**。 **答え：イ 解説：**「鳴る（終止）＋なり」。鼓の音を聞いての聴覚推定。

Q96. 次の傍線部「めり」は、ア～エのどれか。

旅人、道に迷ひて、いと**わびしげなめり**。 **答え：ア 解説：**「わびしげなる（形容動詞・連体）＋めり」が「わびしげなめり」。様子を見ての視覚推定。

Q97. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

北の方は、按察使（あぜち）の大納言の御むすめ**なり**。 **答え：エ 解説：**体言「むすめ」＋なり。断定。

Q98. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

深き夜、遠き寺に鐘**つくなり**。ひとり聞きて、昔を思ふ。 **答え：イ 解説：**「つく（四段・終止）＋なり」。四段「つく」は終止形・連体形が同形なので、接続だけでは決まらず、鐘の音を聞いての聴覚推定「遠い寺で鐘をついているようだ」という文意で判断する。

Q99. 次の傍線部「らし」は、ア～エのどれか。

（歌）秋風にほころび**ぬらし**藤袴つづりさせてふきりぎりす鳴く（古今集・在原棟梁） **答え：ウ 解説：**「ほころび」（連用形）＋完了「ぬ」の終止形＋らし。「つづりさせ（ほころびを縫え）」と鳴くきりぎりす（今のこおろぎ）の声を根拠に、「秋風に藤袴（の花）がほころんだらしい」と推しはかる（花の名の「袴」を衣の袴に見立てた、たわむれの歌）。

Q100. 次の傍線部「なり」は、ア～エのどれか。

をりふし、御簾のうちに、箏（さう）の琴をしらぶる音**すなり**。 **答え：イ** **解説：**「す（サ変・終止）＋なり」。琴を調べる音を聞いての聴覚推定。（「しらぶる」は下の「音」に続く連体形で、「なり」の接続とは関係しない。「なり」の上は終止形「す」。）

採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎（Q1～Q20）	／20
第2部 標準（Q21～Q50）	／30
第3部 応用（Q51～Q80）	／30
第4部 入試（Q81～Q100）	／20
合計	／100

復習のポイント - めり（ア）＝目で見た推定、らし（ウ）＝根拠ある推定。この2つは断定と紛れない。 - 「なり」が出たら必ず接続を確認。終止形＋なり＝聴覚推定・伝聞（イ）、体言・連体形＋なり＝断定（エ）。 - とくにサ変は「す＋なり（推定）」と「する＋なり（断定）」、下二段は「聞こゆ＋なり（推定）」と「聞こゆる＋なり（断定）」で見分ける。 - 四段・ラ変型は形では決まらないので、音・声・うわさの文脈なら推定・伝聞（イ）、説明・言い切りなら断定（エ）。撥音便の「あ（ん）なり」「な（ん）なり」は推定・伝聞（イ）。 - 「なり」の断定・伝聞推定の識別は頻出。「なり」の識別ドリルとあわせて仕上げよう。